



第12章

アジアにおける地域内保健協力の可能性

東京都立大学 法学部教授

詫摩 佳代

【ポイント】

- 新型コロナウイルス禍をきっかけとして、グローバルなレベルでの保健ガバナンスの綻びが明らかとなっているが、国際保健規則の見直しや新たにパンデミック条約創設に関する議論が進められている。他方、米中対立や米国の内向き志向の影響を受けて進展は極めて鈍い。
- そのような事情もあり、地域レベルで協力を強化する動きが見られている。例えば欧州やアフリカでは、域内での医薬品や医療機器の供給情報の共有、域内サーベイランスシステムの整備など、公衆衛生上の危機に対する地域レベルでの備えと対応を強化する動きが見られている。
- 他方、アジアに関しては、外交上の緊張関係が邪魔して、地域内保健協力はほとんど進展が見られない。政治体制や価値観の違いも大きいこの地域で、包括的な協力枠組みは現実的に難しいかもしれないが、その分、非公式な協力の重要性が高まっていると言える。



注目データ

地域内保健協力の進展

地域	公的な協力の状況
欧州	欧州保健連合設立へ
アフリカ	アフリカ・ワクチン入手トラスト（AVAT）設立
アメリカ	WHOアメリカ地域局が、新型コロナワクチンの域内製造を推し進めるための地域的プラットフォームを設立
アジア	ASEAN感染症対策センター設置計画